



やよいじだい

弥生時代の人々は、どんなものを食べていたの



米を中心とする^{こくもつ}穀物、木の実、肉、魚、貝などを
食べ、塩もつくっていたようだよ。

弥生時代のおもな食べ物

穀物：米、あわ、ひえ、きび、大麦、小麦など。

木の実：どんぐり・くるみ・かや・とち・くりなど。

まめ類・果物：まめ、うり、ももなど。

野生動物：いのしし、しか、くま、うさぎ、たぬき、きつねなど。

鳥：かも、つる、かりなど。

魚・水産動物：すずき、くろだい、はも、きす、にしん、あじ、ふぐ、あゆ、ふな、うぐい、うなぎ、たこ、さめ、すっぽん、さんしょううおなど。

貝：はいがい、おおたにし、かわにな、まがき、うみにな、しおふき、さるぼう、やまとしじみなど。

ぶた・犬を^{かちく}家畜にして、食べていたらしい

弥生時代の遺跡^{いせき}から発見された、いのししの骨^{ほね}とされていたものの中に、ぶたの特徴^{とくちょう}をもつものがあります。また、解体したらしい傷^{きず}あとがある、犬の骨も発見されています。弥生人は、ぶたや犬を家畜にして、食べていたようです。ぶたは、いのししを家畜化したものですから、渡来人^{とらいじん}が、家畜化したいのししを、大陸からつれてきたのではないかと想像されています。

塩づくりもしていた

弥生人は、土器に海水・海そうなどを入れ、熱を加えて、水分^{じょうはつ}を蒸発させ、塩をつくっていたようです。また、石川県の遺跡からは、もち米の「ちまき」らしいものが発見されています。

